

ATEM Newsletter

ATEM公式サイト <http://www.atem.org/>

February 2021
No. 39

発行 : 映像メディア英語教育学会事務局
(旧映画英語教育学会)
住所 : 〒605-8501
京都市東山区今熊野北日吉町 35
京都女子大学 文学部
横山仁視研究室内
E-mail : office@atem.org
郵便振替 : 00820-3-1477

映像メディア英語教育学会 / The Association for Teaching English through Multimedia

■会長挨拶

ATEM President
Hitoshi YOKOYAMA
(Kyoto Women's University)



横山 仁視 (京都女子大学)

平素は本学会の諸活動に対してご理解と多方面からのご助言ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。本号がお手元に届く頃には、後期の成績処理も一段落し、ほっと一息ついておられることと思います。振り返ってみれば、2020年度は一部の教育機関を除き4月開講が1カ月遅れの前期授業開始となり、その分8月末まで前期成績処理に追われました。後期も早いところでは9月中旬に授業が始まり、オンライン授業の対応に忙殺された1年でした。

こうしたコロナ禍において、本学会の諸活動にも少なからず影響があったことは認めざるを得ません。ATEM および姉妹学会である韓国のSTEMの年次大会を中止することに至ったことは、誠に残念なことでした。また、一部の支部大会も従来の開催時期に実施できなかったことも挙げられます。こうした状況においていち早く昨年7月に北海道支部がオンラインによるシリーズ企画"OOPS! (Online Open Presentation Series)" (7月から2月の毎月1日に開催を立ち上げたこと、また12月には東日本支部が支部大会をオンライン開催できたことは感謝に堪えません。特に前者は、夕刻にもかかわらずSTEMを含め毎回20名を超える参加者があり、活発な交流の場となりました。10月には本部企画として「オンライン授業事例発表研究会」と題し、6人の先生方にご協力をいただき、ハイブリッド型授業実践例をご報告いただきましたことも大きなモメンタムとなりました。何かを教えるための好例となる各種メディア英語とICTの融合により、オンライン授業が決して対面授業に劣ることのない、逆にそれ以上の教育効果が期待できることを実証してくれたオンライン授業研究会でした。STEMとのオンライン研究会が「OOPS!」を機に昨年7月以降活発になってきたことも、会員の皆様には是非お伝えさせていただきます。STEMからは、

各種オンライン研究会・シンポジウムの情報を随時提供してくれており、STEMの関係学会の研究者の皆さんたちとの学術交流の輪が広がるきっかけとなっています。まさにオンラインによる学術交流元年でした。一方では、特定の支部や会員の参加者に偏りがあったことも課題として残りました。STEMの期待に応えるためにも広報のあり方を見直し、ATEM会員の皆様へのわかりやすい情報提供に努めますので、積極的なオンライン参加にご協力をお願いいたします。

「新型コロナ」という言葉が昨年早々に日本国内でも叫ばれるようになって以来1年が経ちますが、残念ながら収束の目途も立っていない状況です。日常生活が一変してしまったことは言うまでもなく、教育・研究活動に携わっている私たちにとっては授業や研究活動の形態を見直し、学習者・学会員・社会のニーズに迅速に対応していく発信・対応力が求められている時代にある中、2021年度のATEMおよびSTEMの大会はオンライン開催することが決定しております。コロナ禍で得た問題を整理し、逆に獲得した知見を本年度の研究活動に活かすことでスムーズな学会運営に努めたく思います。

3月は各支部大会や研究会が多くオンライン開催されます。会員の皆様の参加が何よりの学会への大きなお力添えとなります。オンラインゆえに支部間の垣根を超え参加できる機会でもあり、オンライン活動の可能性と実効性を認識し、これらの活動への参加で得た知見・経験値は2021年度の活動のあり方を考える上で必ずや確かな礎となることでしょう。そのためにも会員の皆様には、内容はもとよりオンライン開催運営について建設的なご意見をいただきたく思います。

最後に、ご承知のように会員管理システムからの会員メール配信に障害が生じております。関係部署が鋭意対応しておりますが、もうしばらく時間がかかるようです。会員の皆様にご情報提供する最も大切な手段に障害が生じていることに責任者としてお詫びいたします。復旧するまで、Googleのメーリングリストを代用し情報発信に努めてまいりますので、ご理解とご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

2020年度末の活動としての3月のオンライン支部大会・研究会の盛会と、2021年度のATEMの発展を祈念し、挨拶とします。

オンライン授業事例発表研究会報告

新型コロナウイルス感染予防のため、2020年度の全国大会は中止となりました。この代替措置として、ATEM 本部はオンライン授業事例発表研究会を開催し、10月に3回に渡り6名の先生方にご発表いただきました。その概要をご紹介します。

10月3日(土)**コロナ禍でも高校生の生きる力を育てるメディア活用—TED Talk を活用して生徒の Grit を育む—**

山崎 秀樹 先生 (北海道千歳高等学校国際科)

【概要】北海道千歳高等学校国際教養科3年生の「時事英語」の授業で行った実践を報告しました。4月から6月の休校時、本校は ICT 環境の整備が間に合わず、オンライン授業はできませんでした。しかし、生徒のスマートフォン等のデバイス、TED アプリと SNS (LINE) を活用し課題を提示しました。セングージラーニング社の『Keynote』の Inspiration がテーマのユニットを学び、その発展教材として Angela Duckworth の「Grit～成功の鍵は、やり抜く力」を英語で視聴し、聞き取りや内容理解を行いました。大学入試の変更やコロナ禍に翻弄される3年生の意欲を増進させるべく、生徒が心の支えにしている Quote (名言) をポスターで発表させ、それに関する英文エッセイをパフォーマンステストとして課すなど、教科書の内容を発展させた活動と、アプリなどの ICT 活用で自宅学習の機会を補償し、生徒の英語学習へのモチベーションを向上させる試みを発表しました。

【キーワード】高校、ICT、TED、AL

YouTube を補助教材とした Zoom 授業の実践報告**—ホテルイングリッシュ編—**

金田 直子 先生 (神戸女子大学健康福祉学部
社会福祉学科・非)

【概要】私が担当しているホテルイングリッシュを扱うクラスでは、接客時の基本的な英語表現を学びます。以下に授業で実践した2点のご報告いたします。1点目は、Zoom 会議での学生の「顔出し」についてです。学生の授業の受講環境やプライバシーの観点などから、本人の顔写真ではなく「私の好きな写真」を登録することを1週目の課題にしました。また翌週に自己紹介も兼ねて、その写真に関する簡単な紹介をしてもらいました。2点目は、YouTube の動画を補助的教材として活用しました。YouTube を活用する利点として教科書で学んだフォーマルな表現と、実際に現場で使われている表現の橋渡しができるだけでなく、学習者が

自分の興味に応じて動画を検索し学習を自立的に継続することができることなどが挙げられます。学生の集中力を維持させつつ、知的探究心を鼓舞させるような授業のために、彼らのカルチャーに寄り添った教材研究に今後もさらに精進したいと思います。

【キーワード】ホテルイングリッシュ、Zoom 双方向授業、YouTube

10月10日(土)**オンラインで英語インタラク션을充実させる工夫—タスクやアプリを活かした取り組み—**

三ツ木 真実 先生 (小樽商科大学言語センター)

【概要】「英語コミュニケーション」の科目で実施したオンライン授業で、いかに英語インタラク션の機会を実現したかについて報告しました。Zoom のブレイクアウトルームを使用して、ペアで行う画像描写のインフォメーションギャップ・タスク (画像に対する英語の説明を聞いて絵を描くタスク) について、オンライン授業でのインタラクティブな活動に適するものとして紹介しました。他にも、英語ディスカッションベースのオンライン授業でインタラク션을充実させるための仕組みとして、【準備 (ディスカッション内容の事前レポートライティング)】→【Zoom でのインタラク션】→【ふり返し (ディスカッションのサマリーライティング)】のサイクルを、オンデマンドとリアルタイムを交互に行う反転学習スタイルで実施する授業デザインについてもお話ししました。最後に、ユーザーが投稿した動画に対して閲覧者が動画でコメントを残せるアプリである Flipgrid にも触れ、授業外のインタラク션充実にも効果的なアプリとして紹介しました。

【キーワード】オンライン授業、英語インタラク션、インフォメーションギャップ・タスク

Zoom で画面をいろいろ彩る授業工夫—短時間・省労力・少数機器をモットーに—

飯田 泰弘 先生 (岐阜大学教育学部)

【概要】本発表では、Zoom を用いた授業を非同期型と同期型の二つに分け、便利な機器の紹介や英語の遠隔授業の実践例を提示しました。具体的には、非同期型授業の実践例として英語学と Reading の授業を取り上げ、録画面面上へのカラフルな文字の書き込み方、音声ファイルの挿入方法、録画時間の長さなど、発表者のこだわりポイントを紹介しました。また、サムネイルの工夫など、Microsoft Stream や YouTube で動画を配信する際の工夫ポイントも提示しました。同期型授業の例としては、映画英語の授業を取り上げ、ひとつの画面上にハンドアウトと

映像を同時に表示することで、学生側の通信容量を低く抑え、スムーズな授業展開が可能になることを示しました。同期型・非同期型授業の両方においてモットーとしたのは、授業準備で教員側の負担が大きくなり過ぎないことであり、限られた機器のみでも効率よく短時間で Zoom 画面を彩れることを複数の授業例から示しました。

【キーワード】 Zoom、同期非同期型授業、画面上の工夫

10月11日(日)

Zoom と LMS (クイズ・レポート機能) 併用による TOEIC 対策授業

都築 雅子 先生 (中京大学国際学部)

【概要】全学共通英語選択科目 TOEIC 対策授業 (上級向け約 30 名) のオンラインでの取り組みを紹介しました。対面では、一回の授業で教科書 1 課ずつ、5 段階のステップ (①当該課の文法項目の確認 (文法プリントの問題を解かせ、PowerPoint で解説) ②語彙の確認 ③問題 (listening 12 問 / reading 16 問) をテストとして解かせる ④ PowerPoint による正答提示と採点 ⑤ listening 問題の穴埋めプリントによる確認/reading 問題解説) で行っていました。オンラインでは、まず授業時間に Zoom で、前回課で解答率の低かった問題や穴埋め課題で聞き取れなかった表現を中心に解説後、当該課の文法項目/語彙の確認 (⑤①②)。その後、課外で当該課の問題を解かせ (③)、LMS クイズ機能で解答の回収 (④)。その日以内に LMS レポート機能で listening 穴埋め課題を提示し、2 日以内の締め切りで回収 (⑤)。3 日後に LMS で当該課解説プリント/次回課文法プリントを提示しました (⑤①)。学生からは、(1)事後学習 (穴埋め課題提出のため何度も listening を聞き直す等) や事前学習が自然と促された (2)学生からの疑問/解答率の低い問題に対する Zoom でのピンポイントの解説がよかった、といった意見も多かったです。試行錯誤のオンライン授業ですが、今後の授業改善に繋げていきたいです。

【キーワード】 Zoom、LMS、TOEIC 対策授業

Zoom と Google Classroom の併用による学習環境作り—医学部の授業における実践奮闘報告—

南部 みゆき 先生 (宮崎大学医学部社会医学講座 英語分野)

【概要】前期の医学科 1 年生 (28 名×2 クラス) と 2 年生 (43 名×2 クラス) の英語科目の授業を紹介しました。1 年生

で重要視したのは、1) 学生同士が知り合える機会を授業内で出来る限り提供すること、2) 題材を新型コロナウイルスにすることで、医学生になった! という意識を持ってもらうこと、でした。Zoom では制限時間を設けたグループ活動が可能であり、上記がほぼ達成出来たように思います。2 年生では毎年解剖英語を扱うのですが、今年は解剖実習開始の目途が立たず、英語学習内容を「オプション制」にしました。7 つのテーマから (医学書読解、英語ディスカッション、英語ジャーナル、洋書読破、リスニング強化、MOOC 受講、自由テーマ)、挑戦したいことを学生に個別に選ばせた結果、概ね好評で、Zoom 参加度、提出物ともに充実していました。しかし、フィードバック等には想像を遥かに超える時間がかかり、教員側の心身への負担という点では少々無謀な取り組みだったかもしれません。

【キーワード】 医学英語、オプション制

●受賞のことば ＜研究奨励賞＞

How Watching Subtitled YouTube Videos Can Affect EFL Listening and Reading Abilities

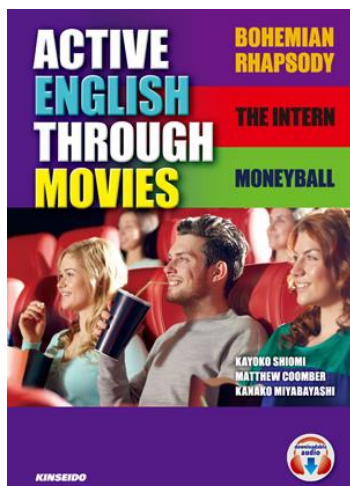
Sachiko Nakamura (中央学院大学)
Ryan Spring (東北大学)

この度は、研究奨励賞をいただき非常に光栄に思っております。私たちは、英語字幕を使用した動画視聴が英語学習に与える効果に興味を持ち、共同研究を行った内容を論文としてまとめました。「英語の音を聞き、字を目で追い、同時に英語が使われている状況を映像で見ることが出来る」この学習法の可能性を大いに感じており、今後もこのテーマの研究をさらに発展させていきたいと考えています。私たちの研究を通じて英語教育に、そして ATEM の益々の発展に少しでも貢献できましたらこれほど嬉しいことはありません。査読をしてくださった先生方、ATEM ジャーナルの編集を担当された先生方には、心より感謝申し上げます。



受賞を
祝して
ハイタッチ

■書籍紹介

Active English
through Moviesアクティブ・ラーニング型
映画で学ぶ英語 4 技能塩見佳代子・
Matthew Coomber・
宮林賀奈子 共著
(金星堂 2021)

この魅力的なテキストが生まれたのは、まさに ATEM がきっかけでした。著者である塩見佳代子先生が 2018 年に京都外国語大学で開催された第 24 回 ATEM 全国大会で行った「映画『マイ・インターン』で学ぶ就職に関する英語表現と自己 PR 動画作成」という発表に出席した弊社社長から、「塩見先生がおもしろいことをやってるよ」と知らされたのですが、換言するとそれは、「企画を立ててテキストにせよ」ということでした。その後、塩見先生とのやりとりを経て、最初にいただいたサンプル原稿で目を惹いたのは、アクティビティのカラフルなアイデアでした。実際に映画を用いた授業を長年行ってきたご経験に裏打ちされた、学生さんのリアルな反応を知り尽くしている塩見先生ならではのアイデアに溢れたアクティビティの数々を拝見していると、学生さんたちが楽しそうに授業で活動している光景がはっきりと浮かんできて、これは絶対によいテキストになると確信しました。

テキストを作る上での「肝」は作品選びでした。1 つの作品だけだと、じっくり向き合える一方、関心のない先生方には手に取っていただけませんし、学生さんも興味がなければ授業に身が入らないかもしれません。かと言って、あまり多すぎても消化不良を起こしてしまうおそれがあります。その意味で、本テキストで取り上げた『ボヘミアン・ラプソディ』『マイ・インターン』『マネーボール』という 3 本の映画は、それぞれタイプが異なりと同時に、エンターテインメント、ファッション、スポーツ

という 3 つの異なる業界を描いていることから、多様な関心に対応できると考えられます。また、1 つの作品に対して 5 ユニットという配分もちょうどよかったのではないかと思います。

本テキストの構成を簡単にご説明いたしますと、1 ユニットは<Pre-viewing><Movie Viewing><Post-viewing>の 3 つに大別されます。<Pre-viewing>では、まずウォームアップとしてユニットごとに作品に関する「あらすじ」「肯定的／否定的なレビュー」「背景知識」など 130 語程度の英文を読んでスキーマを活性化させます。その後、本文に登場する重要語句の英日マッチング、登場人物や状況を把握する 400 語程度のリーディングと内容理解問題 (T/F または多肢選択式)、映画に登場する口語表現と進みます。いわば、ここまでが前菜で、次にメインディッシュである<Movie Viewing>で実際に映画を味わいます。場面を視聴しながらの内容理解に加え、ディクテーション、役になりきってのシャドーイングやロールプレイ、ノートテイキング、英日または日英の字幕作成などバラエティに富んだアクティビティが充実しています。最後の<Post-viewing>はデザートと呼ぶには甘くないかもしれません。クリティカル・シンキングでは、



映画に出てくるトピックに関して批判的思考力を養うため、ディスカッションを行います。また、アクティブ・ラーニングでは、バンドの記者会見を開いたり、就職の模擬面接を行ったり、スポーツイベントを企画したりするなど、自分の意見を創造的に表現する機会を提供します。さらに、各作品の最後のユニットでは

まとめとして自分でレビューを書きます。映画を用いた教材ではリスニングをベースにした問題が多く見受けられますが、受信力だけでなく発信力も含めた 4 技能の養成を目標とするという塩見先生の思いが本テキストには込められていますので、ぜひお手に取って実際にご覧いただければ幸いです。

最後に、本テキストが生まれるきっかけを作ってくださった貴会に、この場をお借りして感謝申し上げます。

金星堂 今門貴浩

■支部だより

【北海道支部】

◆コロナ禍を従来の地理的および気象的ハンデを克服する学术交流の好機と捉え、2020年7月1日より毎月1日の19時より20時までZoomを活用したOOPS!(Open Online Presentation Series!)を始動しました。これまで計8回の実施で北海道支部会員の他、会長を始めとする理事の方々や他支部の会員の皆様、韓国のSTEM会員など、毎回20名を超える参加がありました。2021年2月まで開催の予定ですが、様子を見て継続することも考えています。

(支部長：小林 敏彦)

【東日本支部】

◆本年度前半の例会は中止となりましたが、支部役員の尽力もあり、9月13日(日)にオンラインで久々の例会が可能となり、7件の発表に恵まれました。一方、12月20日(日)のオンライン支部大会では、3件の発表それぞれについて質疑応答の時間を多くして、発表後の議論の活性化を図る試みを行いました。支部の垣根を越えて多くの支部からも多くの方にご参加いただきありがとうございました。

(支部長：日影 尚之)

【中部支部】

◆今年度は新体制になって1年目でしたので、支部大会の折にでもそのご報告をし、さらに今後の支部の方針について支部会員の皆様と協議したかったのですが、それが叶わぬまま今年度最後のNewsletterの発行時期を迎えてしまいました。2021年3月には、支部大会を開催したいと考えております。詳細を決め次第、お知らせいたします。支部運営にご協力いただけるようでしたら、ご連絡いただければ幸いです。

(支部長：井土 康仁)

【西日本支部】

◆第17回西日本支部大会を2021年3月13日(土)にオンラインで開催します。今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました昨年度の支部大会に計画していた内容が中心となります。英語学SIGによるワークショップや、小学校での英語教育をテーマにしたシンポジウム等に加え、西日本支部では、昨年度より著作権についての勉強会を立ち上げ、活動を行ってまいりましたので、その報告会や、支部交流企画として、田淵龍二先生(東日本支部：ミント音声教育研究所)による著作権に関する発表、そして、ATEMの著作権問題顧問の甲野正道先生(大阪工業大学)による特別講演も予定しております。

(支部長：近藤 暁子)

【九州支部】

◆2021年3月14日(日)に第22回九州支部研究大会をオンライン(Zoom)開催します。発表の募集は九州支部会員の方限定ですが、聴講参加はどなたでも歓迎ですので、ぜひお知り合いの方をお誘いあわせの上、ご参加ください。

日時：2021年3月14日(日)13:00-15:30 予定

実施方法：オンライン(Zoom)開催

URL等の情報は、大会が近づきましたら、支部HP内の「大会情報」にて公開します。

(支部長：吉村 圭)

■委員会だより

【ジャーナル編集】

◆ATEM ジャーナル第26号には12編の論文の投稿がありました。ご投稿くださいました会員の皆様に御礼申し上げます。投稿された論文はそれぞれ3名の査読委員に審査いただきました。お忙しい中ご協力いただいた査読委員の先生方に御礼申し上げます。

◆ジャーナル編集委員会では引き続き編集作業の効率化を図り、掲載論文のJ-STAGEへの登録を進めていく予定です。

(委員長：足利 俊彦)

【国際交流】

◆2020年度に行われる予定であった第24回STEM国際大会は、コロナ禍の影響により中止となりましたが、2021年度も開催が見送られることになりました。現在STEMでは、定期的にオンライン・プレゼンテーション(STEM VP: STEM Virtual Presentation)が行なわれていますが、今年度はこの活動を拡充することに注力していくとことです。これについては、今後HPや会員メールなどでもご案内していきたいと思っておりますので、お気軽にご参加いただければと思います。

(委員長：井村 誠)

【大会運営】

◆2020年度は、各支部長をメンバーとする新しい委員会体制でスタートしましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、急遽、第26回ATEM国際大会を中止することになりました。大会を楽しみにしておられた会員の皆様には申し訳なく思います。来年度の大会は、新型コロナウイルス関連の問題を避けるため、秋に全面オンラインで開催することになりました。概要はHPに掲載されますのでご留意下さい。

(委員長：藤枝 善之)

【会員管理】

◆登録情報の更新をお願いいたします。「会員管理システム」内「メニュー」の「個人のページ」にアクセスすることで、登録情報の更新が可能です。登録された個人情報をもとに、広報誌「ATEM Newsletter」や論文・紀要「ATEM ジャーナル」等の送付、学会からの一斉メールの配信を行っております。ご協力の程お願い申し上げます。

(委員長：嘉来 純一)

【ICT】

◆この度本部HP上に、西日本支部が毎月支部ページに掲載中のコラム「映像メディアと英語」を紹介する記事を掲載いたしました。今後も、各支部独自の活動を「支部活動報告」として紹介していきたいと考えております。

◆2020年12月中旬以降サーバのシステムの不具合から、サイトの情報更新ができない状態が続きました。会員の皆様にはこの場を借りてお詫び申し上げます。

(委員長：巳波 義典)

【広報】

◆全国大会中止により、2020年度のNewsletterの内容を大きく変更させていただきました。

(委員長：秋好 礼子)

■決算報告

第26期 映像メディア英語教育学会【決算報告書】

2019年4月1日～2020年3月31日

収入の部			支出の部			
前年度繰越		481,302	大会開催費	大会開催総費用	253,590	
会員年会費	2016年度分@5,000	2	10,000	紀要印刷費(抜刷り含む)	369,900	
	2017年度分@5,000	8	40,000	ニューズレター発行費	140,832	
	2018年度分@5,000	29	145,000	ホームページ維持費	サーバ・レンタル代	5,142
	2019年度分@5,000	265	1,325,000	研究活動費	支部活動助成	250,000
	2020年度分@5,000	6	30,000	事務用品費	備品・封筒作成・資料代他	3,736
賛助会費	2019年度分@10,000		90,000	通信費	電話代・郵送料・切手代他	150,854
大会参加費	会員@2,000(事前@1,000)		96,000	諸会費	言語系学会 年会費	10,000
	非会員@3,000(事前@2,000)		27,000	会議・遠隔地補助	理事会開催遠隔地旅費補助 他	223,461
大会懇親会費	懇親会 @5,000		260,000	消耗品費	会計ソフト等	44,016
書籍売上	紀要・著作権ハンドブック		4,480	懇親会費	懇親会支出額	305,500
受取利息			4	雑費	振込料他	8,184
書籍送料				未払金支払		130,094
書籍送料						
小計			2,508,786	小計		1,895,309
					みずほ銀行	438,099
					郵便振替口座	174,058
					小口現金	1,320
					翌年度繰越金	613,477
合計			2,508,786	合計		2,508,786

※個人会員 362名・賛助会員 12社
 昨年度参考 ※個人会員355名・賛助会員 11社

2020年5月吉日 上記の通り相違ありません
 会計監査 秋月 剛



ATEM Clapper Board

- ATEM の学術活動は皆様の会費で運営しております。
 ※会費納入方法については、本部 HP をご参照ください。
<http://atem.org/index.php/membership/membership-fee>
- 支部にてワークショップを開催する場合は、運営補助金の申請が可能です(審査あり)。詳細は事務局までお問い合わせください。
- 以下の会員の著書が出版されました。

谷川建司(編集)(東日本支部)
 『映画人が語る 日本映画史の舞台裏 [配給興行編]』
 『映画産業史の転換点——経営・継承・メディア戦略』
 (森話社)

Spring, R. (東日本支部)
 『From Linguistic Theory to the Classroom: A Practical Guide and Case Study. Newcastle, UK: Cambridge Scholars Publishing.』

(事務局)

<賛助会員一覧> 2020/12/14 現在 (50音順)

- ★株式会社朝日出版社
- ★株式会社英宝社
- ★株式会社桐原書店
- ★株式会社金星堂
- ★国際トラベル京都
- ★一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
- ★コスモピア株式会社
- ★株式会社松柏社
- ★株式会社成美堂
- ★センゲージラーニング株式会社
- ★株式会社 モデル・ランゲージ・スタジオ

～編集後記～

◇年末年始のお忙しい中、本号作成に様々な形でご協力くださいました皆様に、心よりお礼申し上げます。

◇次号は2021年5月頃に発行予定です。

[広報委員会] 2021/2/8 現在

委員長: 秋好礼子 (九州)

委員: 田口雅子 (北海道) 杉浦綾子 (東日本)

井土康仁 (中部) 衛藤圭一 (西日本)

石田もとな (九州)

©ATEM All rights reserved.

